日専連信条の再構築

真心と誇り 商人の道を築こう（最終回）

川中 清司
富山短期大学名誉教授
日専連名誉講師

日専連の新たな挑戦

日専連七〇年の歴史は、商業者が自らの経営革新を目ざす運動と、大型店と商店の調和を保ち商業の秩序を守る活動で彩られている。

日専連は協同組合であり、組合員が助け合い発展を遂げる相互扶助の理念がある。さらに、五〇〇〇億円のクレジット事業を展開する事業体として継続発展を目ざさねばならない。理念と現実を解決して、進むべき今後の方向を考えてみたい。

◆日専連の盛衰パターン

岡山から始まって全国ネットに進み、戦時中に一旦休止したが、戦後ただちに復活してクレジット事業を中心に目覚ましい発展を遂げた。バブル崩壊のあと、構造的な転換期を迎えている。

・商業の秩序を維持

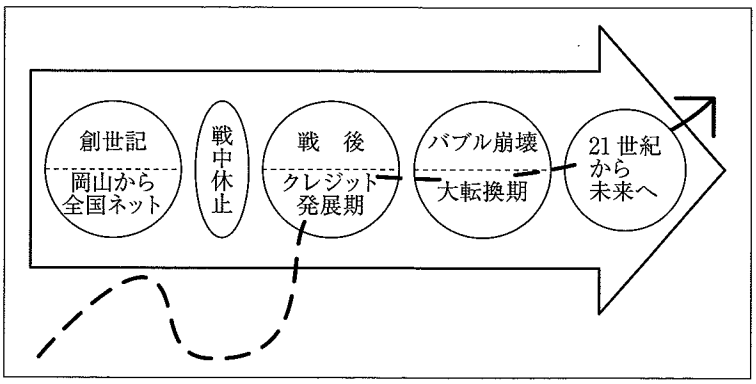
かつて大型店の新増設は、「商調協」によって調整されていた。

消費者、大型店、既存商店の三者が協議して、お互いが便利で栄えていける面積などを取り決めていた。日本独特の和の機能が働き、商業の秩序が保たれていた。

さらにこれらを推進するため、仙台や松山をはじめ各地で近代化協議会がつくられ、調整の効果があがり、中心商店街の維持に役だった。元日専連理事長の伏見亮さんや平松泰三さんらの功績が大きい。

米国から自由化を迫られて、大店法がなくなり商調協を失った。郊外SCが野放しで拡大し、都市構造の変化をもたらし、小売商業の基盤が失われた。かつては日本のどこにでもあった、美しい商店街が壊されてしまった。

日専連の盛衰



ヨーロッパのように、古い伝統のある商店街が街とともに残り、歴史と文化の中で市民生活を楽しむ、そういう日本を呼び戻さなければならない。

高齢社会が進むなかで、コンパクトなまちづくりと地域商店街の復活は日常生活の面でも不可欠だ。

・組織体のライフステージ

生あるものは死に、形あるものは滅する。生者必滅・諸行無常のことわりは、人間だけではなく企業や組織体にもある。

企業は人間のように限られた寿命があるわけではないが、次のパターンをたどって衰退していく。

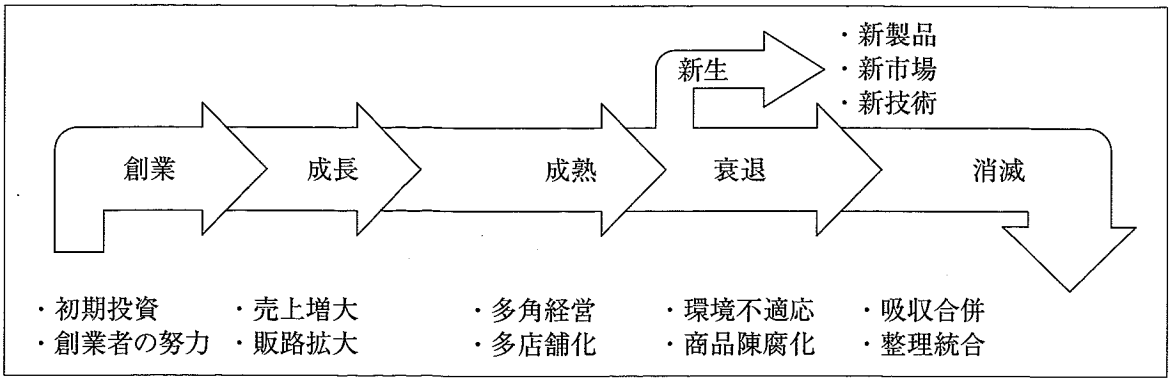
◇**創業期**：創始者のバイタリティーのもとで、活発に事業が展開され初期投資が進む。

◇**成長期**：マーケットを拡大し、売上げが増大する。

◇**成熟期**：多店舗展開し多角経営に入り、グローバル化していく。

◇**衰退期**：企業をとりまく環境に変化が起きる。製品が陳腐化し、その対応が鈍り、新技術、新製品の開発が遅れる。リストラや縮小に入る。

創業 衰退パターン



◇**消滅期**：吸収・合併・整理・統合を余儀なくされ、結果として事業の命を縮め、倒産に至る。

・新分野の開拓と新生へ

しかし、果敢に時代の変化に挑戦し、新しい分野を開拓して新生する企業もある。寿命を終えて夜空に砕け散る星もあり、新しく誕生して輝く星もある。企業の運命もその宇宙の姿に似ている。成熟期は衰退の始まりと認識して、新しい活路を求めて転換を図ることが大事であり、それを怠れば再生は難しくなる。

日専連クレジット事業も五〇〇〇億円台に入った時点で、一つの転換期を迎えていた。リーマンショックの後、特に貸金業法の改正以降、環境が大きく一変した。協同組合の事業としての限界を乗り越えて、株式会社方式への転換は至当であった。中間法人の協同組合から営利法人の株式会社へと脱皮し、新しい分野を目ざしたのは正しい判断であった。

これからの課題は、営利事業をどう伸ばすか、組織母体の協組活動の焦点をどこに置くか、双方の解決を迫られている。

・三つの組織体質

日専連は真商道を求めて進み、加盟店の利益を促進する経済団体であり、次の三つの組織体質を持っている。

○精神的な結合体（ゲマインシャフト）

日専連信条を核に、共通の理想を持つ同志的な結合体であること。いわば精神的に融合した共同社会のような組織だ。

○経済的な結合体（ゲゼルシャフト）

クレジット事業をはじめ、金融、共済、教育など、多くの共同事業を営む。メンバーが利益を高める目的のもとに形成された組織だ。

○法律的な結合体（リーガルストラクチャー）

協同組合（同連合会）や株式会社など法律に基づく組織。

日専連信条はこうした内容を説いている。

・会社へ転換　課題克服

日専連は、これまで多くの課題を乗り越えてきた。協同組合であるために、事業を進めるうえで限界があった。組合員のための協同事業が主眼であって、いわゆる員外利用の制限があった。実際にクレジット事業など、加盟店以外のウエイトが大きかった。

資金の調達についても、役員などの保証による金融機関からの融資が主体であった。そのため、役員の危険負担は高く、自己資本比率も低かった。

協同組合の理事長の多くは非常勤で、事業の実務面は有能な専務理事または事務局長が担うところが多かった。しかし、これが事故発生の原因にもなっていた。

株式会社であれば、代表取締役は最高責任者として常勤し、職務の専念遂行が必要だ。これらを克服するために、クレジット事業の株式会社への転換が行われ、新しい局面へと踏み出した。

◆新たな目標への挑戦

協同組合で本来の組織活動を進め、株式会社でクレジットなどの事業を展開する。その二つの調和が求められる。

専門店会の組織を強化し、加盟店の結束を強める。その活動財源を供給し、双方が発展していくという理想の実現が期待されている。

中心市街地が疲弊し、商店が激減し加盟店も打撃を受けている。これを復興し、活気ある新しいまちづくりを進めることは、商店サイドを超えた、社会全体の課題であり、活動の大きな目標となる。

事業面では、改正貸金業法によ

る過払い金返還などで、消費者金融が縮小した。カードの現金化ビジネスなど、ヤミ金融がはびこり、新たな課題に直面している。

日専連のクレジット事業は、地域密着型のキメ細かいサービスを繰り広げ、消費者金融では、むしろ市民生活の応援者であった。いかがわしい暴利のマチ金と同じ立場に置かれてはならない。

・若い力が将来を開く

東日本大震災で、日本の一大転換期を迎えた。原発事故によってエネルギー源の根本的な転換も論議されている。戦後の近代化路線から、新しい価値観の創造が求められ、市民生活の意識もスローライフ的な生き方が問われている。多くのボランティア活動や義援金にも、人間の心の尊さ温かさが輝いている。災害の極限に立って冷静な対処に努めた日本人の姿を、外国メディアが称賛した。

日専連が掲げる「明るく暮らしよい社会」を目ざして、若い力が新しい日本を開いていくことを確信している。

◆信条抄のすすめ

長文の日専連信条を簡略にまとめた「抄」がある。北海道の専門店の店頭に掲げられていたもので、いつも経営セミナーで紹介してきた。全国に広めてほしい。

日専連の誓い

一. 私たちは、お客さまの暮らしを守り
より豊かな明るい社会づくりに
努めます

一. 私たちは、職業に誇りと喜びを持ち
商人としての自覚ある行動に
努めます

一. 私たちは、職業の深い知識と誠実さで
信頼される店づくりに
努めます

一. 私たちは、人格と技術の向上を図り
相互研磨による経営の近代化に
努めます

一. 私たち、協同の活動を推進し
よりよき商道の実現に
努めます

元日専連副理事長の櫻井輝隆さんが、ハワイで日専連の組織を進めたことがあった。ホノルルのサトウという洋服屋さんが賛同し、この「日専連信条抄」を贈った。「商人の道」が国境を越えて伝えられていくことが期待されていた。

お客さまのために真心を尽くすということは、国柄に関係なく世界に共通する。これからも若い力で世界に広めていってほしい。